

船橋市・ハイワード市姉妹都市提携 30周年記念祝賀会



1986年に締結された船橋市・ハイワード市姉妹都市提携は、今年30周年を迎え、10月21日(金)～28日(金)に、これを記念して、ハイワード市からバーバラ・ハリデー市長、テリー・リー市姉妹都市委員会委員長をはじめ62名の親善訪問団が来船した。

訪問団は、市や商工会議所の関係者、姉妹都市委員、永年の交流活動関係の方々、市立船橋高校の姉妹校であるモロー高校の生徒など多彩だった。

モロー高校ジャズバンドは、「ふなばしミュージックストリート」にも出演し、西武船橋カーニバル広場や文化ホールで本場のジャズを披露し、会場では市民との街中交流も行っていた。

秋晴れの10月23日(日)、船橋市国際交流協会は船橋市・ハイワード市姉妹都市提携30周年記念祝賀会を船橋市役所内の特設会場で開催した。

船橋市側からの参加者は、市長、市議会議長、市や商工会議所の関係者、歴代の国際交流協会関連の人たち、それに一般の市民も加わり総勢253人が参加した。

祝賀会は、峰台小学校児童による日本情緒豊かな琴の演奏のオープニングで始まり、当協会・宮会長、船橋市・松戸市長、ハイワード市・ハリデー市長、リー委員長からの挨拶があった。両市間では記念品の交換が行われた。

会場は、ハイワード市の物産品やふなばし産品ブランドの試食コーナー、ワインの試飲コーナー、商工会

議所仕出しのホンビノス貝汁など、いろいろなコーナーで賑わった。30年来の交流記録写真展示には参加者はそれぞれ思い出話の花を咲かせていた。

旧知を確かめ合う人、新しい出会いに遭遇した人、ここにも多くの交流があった。

ステージでは、モロー高校ジャズバンドの演奏、当協会合唱団ピコロの歌唱、市井バンドのカントリーフロンティアの軽やかなカントリー・ミュージックの披露と賑やかなプログラムが続いた。このカントリー・ミュージックの演奏の中にギターを手にした船橋市長の飛び入り出演があって会場の雰囲気を一層盛り立てていた。

永年、両市の交流に貢献されたレイ・ツルモトさんに当協会の金子元会長より花束が贈られた。

参加者は皆、両市の30年に及ぶ交流を確認し合い、この絆を更に強めていくことを確認し祝賀会を終えた。

広報委員 渡辺



ハイワード市への記念品贈呈



モロー高校ジャズバンド
ミュージックストリートで

世界の国からこんにちは 国際理解セミナー スペイン国

11月1日(火)、フェイスビル6階のきららホールにて「第10回国際理解セミナー スペイン国」が開催された。今回は、人々の関心が高く、募集開始から一週間程で定員に達した。

DVDによるスペイン国の紹介、宮協会会長、山崎船橋市副市長の挨拶に続き、ダンサー鈴木眞澄さんご子息、ギタリストと歌手の四人による美しいメロデーに乗ったダイナミックで迫力あるフラメンコが聴衆を魅了した。

聴衆のスペイン国への興味と関心が充分に高まったところで、スペイン国駐日大使ゴンサロ・デ・ベニート氏のスペイン国についての講演がおこなわれた。

大使は、フラメンコがスペイン国と世界の懸け橋となっていることが誇りであることを強調した上で、スペイン国が持つ現代の活力についても見逃さないで欲しいと多くの活動を熱心に紹介された。スペイン国の食文化、鉄道網、再生エネルギー、ファッション、スポーツ、文化遺産、支援活動などが映像を交えて紹介された。例えば、食分野では、チーズ、生ハム、ワイン、オリーブ油の生産量が世界で上位を占めること、交通分野でのスペイン国の高速鉄道網の充実、太陽電池と再生エネルギーの規模、さらに、ファッション産業での「ザラ(ZARA)」を始め多くのブランドの世

界進出、有名選手の排出からみられるスポーツの振興、多くの名高い文化遺産を中心にした安全な観光産業などなど。盛んなNPO活動に見られる暖かいメンタリティーも強調された。

後半、スペイン国と日本の交流の始まりから現代に至る出来事とその時代的背景を追いながら、これから、政府間協力に加え、民間での協力関係、特に若い人たちの間での交流や協力関係の充実に強い意欲を示された。

この講演を聴き、スペイン国と日本との古くからの繋がりを再認識し、更に一層、理解を深めていける機会になった事を喜ばしく思います。

広報委員 梶川



スペイン国駐日大使ゴンサロ・デ・ベニート氏



迫力あるフラメンコ

留学生帰国 カリフォルニア州立大学・イーストベイ校

船橋市国際交流協会の留学生制度による石丸恵祐さんと椎名健一郎さんが、所定のコースを終了し帰国し、その思いを寄稿してくれました。

【石丸恵祐さんの手記】 あっという間の9ヶ月間の留学生活が終わりました。留学生活で得られた友と、彼らと過ごした時間は一生の宝だと言えます。カリフォルニアは世界中の国々の人々が住んでいる場所で、中でもイーストベイ校はアメリカ有数の人種の多様性を誇る学校です。世界中の学生とともに生活することで、それぞれの国や地域の文化に触れることができ、世界の広さを実感しました。また、各々目標を持って渡米してきた学生とともに語り合い、旅行をする中で、国籍は違うといえどみな同じ人間であることに親近感を感じ、よりいっそう仲を深めることができました。今後船橋市からハイワードに派遣される人たちも、アメリカならではの経験と、世界中の友との素晴らしい出会いを満喫してほしいと願っております。



カリフォルニアの自然を満喫する留学生たち

【椎名健一郎さんの手記】 昨年の9月から交換留学生としてカリフォルニア州立大学イーストベイ校に通学しました。

私がこの度、この留学制度に参加することができ、まずは英語が上手に話せるようになりましたし、アメリカでは日本ではできない勉強ができました。特にあまり板書は取らず、先生の話したことをノートにとりながら、しかしながら積極的に発言をしたり、議論しないといけない授業形式は慣れるまで大変でしたがよい体験だったと今になって思います。

また、私の元々の目的であった異文化理解・交流そしてそれによる日本文化の理解を深めるという点についても、日本を離れてアメリカから日本を見つめたり、アメリカの文化を知って比較対象を得たことにより、日本にいたら気づかなかったであろうこともたくさん知ることができました。

今後、30周年を迎えた船橋市・ハイワード市の国際交流がますます盛んになることを願って、報告とします。



すっかり仲よし留学生たち

モロー高校生のホームステイを受け入れて

ハイワード市交流団の14名の高校生が、9つの家庭にホームステイしました。ホストファミリーの美濃部容子さんから経験談が寄せられました。

10月21日対面式で出会ったのは2人の可愛い高校生。自宅に着いて和室のベッドルームへ案内。布団の上に置いたのは亀の縫いぐるみ。メイクはしっかりしているけど、素顔はまだあどけない高校生。久しぶりのお母さん役。しかも異文化の。楽しもう。

翌23日文化ホール・祝賀会にて彼女たちが所属するジャズバンドの演奏を聞いてびっくり。素晴らしかった。プロ級。感動。聞けば、毎朝、始業前、1時間ほどの練習だけで、バンドの他にも好きな活動をしているとのこと。日本における学校部活動のあり方に疑問？

着いて3日目。一人の子の両足の甲あたりが、虫に

刺されてかなり腫れあがる。蜂に刺された!? 聞けば蚊アレルギーとのこと。蚊アレルギー!! それからは外出する度に、キンチョールを手放せなくなる。

食べ物の点では、純和風の物を出そうと張り切ったが、鰹節出しは受け付けられない。ららぽーとで“シェイキーズ”を見つけて喜んで入ったが、味がカリフォルニアのとは違うと不満顔。

初めてのホームステイ受け入れ。てんやわんやの楽しい1週間でした。この間、様々な行事に参加することで、船橋市とハイワード市の永年の絆を感じ、沢山のボランティアに支えられて、今日があることに感銘。



和室で寛ぐ カイラさんとパトリシアさん

外国人避難所宿泊訓練 若松中学校

今年の外国人避難所宿泊訓練は、8月27日(土)、28日(日)の2日間若松中学校で行われ、外国人26名の参加があった。参加した李艶さんが手記を寄せてくれました。

日本は世界でもっとも地震が多い国です。地震対策の知識を身に付けないといけません。そこで 私は8月27、28日の若松中学校での“避難所宿泊訓練”に参加しました。

まず、心肺蘇生法の遣り方やAEDや消火器の正しい使い方などを体験しました。災害とか、とっさの時とか、一度でも経験しておく役立つことがあるかもしれません。私にとっては、全て有意義でした。

大きな災害が起きた時には、家族とはなかなか連絡が出来ません。とても心配になります。「171番災害伝言ダイヤル」の知識を勉強しました。もしも災害があって、「171番災害伝言ダイヤル」にかけるとメッセージを録音して、家族の安否を確かめることが出来ます。「171番」の事を知り心配と不安が少しは減少

しました。

船橋は外国人居住者が多い国際的な町です。災害があったら、言葉も文化も生活習慣も異なる各国の皆さんと一緒に避難するのは大丈夫かと訓練に参加する前には心配していました。でも、今回の避難所宿泊訓練で各国の皆さんと 災害対策実践訓練を勉強したり、非常食を食べたり、ゲームをしたり、楽しい一晩を過ごしました。翌日、各国の皆さんと力あわせて体育館を綺麗に片付けました。活動中、皆さんは国境なしに仲良く避難生活を体験しました。1泊2日の「避難所宿泊訓練」でしたが、災害対策について実際体験もでき、基本的な事をよく理解できました。その上、新しい友達もでき、とても価値ある週末となりました。(李艶)



心肺蘇生法の実習

日本料理講座

9月14日(水)午前10時より中央公民館調理実習室で文化交流委員会が「秋のおもてなし」を主題に日本料理講座を開催しました。今回は日本文化を外国人の方に伝えようということで、参加者30名の内、9名が外国人でした。

宮 協会々長の挨拶に続いて、料理の実習です。講師は協会の川崎光子さんと満田好美さん。実習したのは *祭り寿司(海苔巻き) *かぼちゃのけんちん蒸し *さばのみぞれ煮 *春菊のポン酢和えの4品でした。

実習ではまず講師が実際にやって見せた後に、5名ずつに分かれた6調理台で作りました。'かぼちゃのけんちん蒸し'と'祭り寿司'は巻物なので、皆さん興味深そうでした。'祭り寿司'は、薄焼き卵を花びら

に見立て、紅ショウガ、桃色すしめし、野沢菜と共に海苔巻きにすると切り口がバラの花になり、歓声が上がりました。他の料理も含めて、日本料理の気配りの細やかさが伝わったのではないのでしょうか。

盛りたくさんの料理でしたが、これに加えて、枝豆ご飯、吸い物、デザートが講師やスタッフによって用意され、皆さん美味しくいただき満足気で、13時半には解散と手際よく運ばれました。講師初めスタッフには、材料の手配、下準備など大仕事をご苦労さまでした。



広報委員 中川 熱心に先生の手元を見つめる

Did you hear?

知ってた?

Paper Clothing and Accessories Paper has many uses. Most people use paper only for reading or writing. But there has been a new discovery for it. It is being made into clothing and accessories. For example, bags, hats, necklaces, pants and jackets.

This isn't ordinary paper but it is durable wash paper.

The technique is to twist the washi paper into threads and then to weave it into the cloth. Washi paper absorbs sweat very good because it has spaces between the fibers and air can breathe easily. It's also lighter than regular fabric. And it can be dry-cleaned.

This new technique doesn't come cheaply though. A pair of slacks and a jacket are priced over 100,000 yen.

But don't set for discouraged. You may purchase a pair of earrings or a necklace for less than 4,500 yen.

This is a great discovery, because some people may be allergic to metals. And they are also light to wear.

One designer commented, "I believe many designers find Japanese beauty in the fragile and delicate nature that paper has."

紙の服やアクセサリ 紙はいろいろと使いみちが多いのですが、普通に思いつくのは、本やノート、読んだり書いたりというところでしょうか。最近、紙製アパレルが出始めました。バッグ、帽子、ネックレス、上着にズボン。

ふつうの紙ではなくて、特別に丈夫な和紙です。和紙で糸をよって、布を織り、服を作ります。和紙は湿気を吸って風も通すので快適。他のせんいより軽い。ドライクリーニングもできます。

このハイテク素材、ちょっと高価で、上下服で10万円をこえてしまいます。

それでもあきらめられない方には、イヤリングやネックレスが4500円くらいです。

金属アレルギー困っていた方にはこれはうれしい発見でしょう。しかも軽い。

作ったデザイナーは、紙の柔らかさと繊細さに日本的な美しさを味わってほしいとのこと。

国際交流協会のメールマガジン

船橋市国際交流協会はメールマガジンを発行しています。これは、会員の方にも、そうでない方にも、協会で開催するイベントに参加していただく機会を増やすことを目的にしています。

協会ニュースに掲載していないイベント情報や募集情報などいろいろ発信しています。

メールマガジンの申し込み方法は、ホームページを参照して下さい。ホームページから申し込みができます。申し込みをお願いします。

お知らせ

カリフォルニア州立大学イーストベイ校 留学生募集

姉妹都市であるカリフォルニア州ヘイワード市のカリフォルニア州立大学イーストベイ校への留学生を募集します。

留学期間：29年9月中旬～30年6月中旬

応募資格：以下のすべてに該当する人

- ① 日本国籍を有し、船橋市内に継続して1年以上住んでいる。(大学生で市内の親元を離れていても可)
- ② 平成9年4月1日以前の生まれで、高校を卒業している。
- ③ TOEFL525点(iBT61点)以上を申込み時までに取得している。
- ④ 協会の会員となり、協会の交流事業に協力できる。

*詳細は、募集案内を参照ください。

(協会ホームページ/www.fira.jpで参照出来ます。)

募集人員：3名

受入学部：芸術、文学、社会科学、経済、教育、科学

選考方法：1次 書類選考

2次 英語・日本語での面接(29年2月19日(日))

申込期限：29年1月31日(火)までに国際交流協会

(〒273-8501住所不要)必着。

申込用紙：協会事務局で配布、又は協会ホームページからダウンロードできます。

特典：①授業料の約6割が免除されます。

②船橋市国際交流協会より奨励金が支給されます。

あしがき

“近年にない〇〇”という言葉がこの頃、往々にして耳にする機会が多いとは思いませんか？ 以前だと、“近年にない 豊作とか 豊漁 など”と言った言葉を耳にした記憶もありますが、最近では“近年にない大型台風来襲、・・豪雨、・・猛暑 など”と歓迎せざる用語が飛び交う機会が多いと感じられます。

私たちを取り囲む、気候風土も年々変わっている現実を厭でも感じざるをえません。以前なら、ごく当然だと感じた四季のうつろいも、近頃では往々にして見過ごすほど季節の変遷を感じ難いと思います。そんな中、ある澄んだ秋空の中に、凜とした涼しげな三日月の姿をススキ越しにみた時は、ふと救われる感慨に浸ったものでした。

(K.I.)